



パリで輝く金沢箔の魅力！ ～クリア「伝統と先端と」展に初出展～

(一財)自治体国際化協会パリ事務所 所長補佐 池田 志穂 (金沢市派遣)

1月21日から2月1日まで、パリ日本文化会館にて、第7回「伝統と先端と～日本の地方の底力～」展(クリアパリ事務所主催)が開催されました。今年は、ジャポニスム2018があった昨年を上回る全国17自治体が参加し、私の派遣元でもある金沢市が初めて出展しました。

同市は今回、金沢を代表する伝統工芸の1つである金沢箔に特化して歴史や魅力をPRすることで、知名度向上と販路開拓につなげるため、出展を決めました。私は今回、活動支援の一環として金沢市の出展を支援しましたので、その様子をレポートします。

金沢箔のモノと技、フランス人を魅了

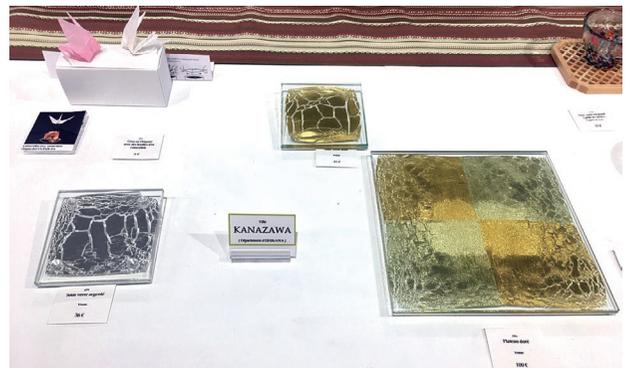
「伝統と先端と」展では、来場者が自らの生活で出品品を使う場面をイメージしやすいように「衣」、「食」、「住」のテーマごとに展示をしています。金沢市は今回、「衣」の金沢箔を施したレースのアクセサリーから、「食」の食用金箔を包んだ折鶴や金箔をあしらった皿、「住」の金箔うちわや筆記具まで、3つのテーマにわたるさまざまな逸品を出展し、その多彩さと金箔の繊細な輝きに、多くの来場者が見入っていました。

また会場での展示だけでなく、会期中の1月31日、2月1日の2日間、箔職人で伝統工芸士の津田朝喜氏、箔貼り職人の寺本健一氏による箔の実演を行いました。津田氏は、1万分の1ミリの金箔を紙からはがして竹枠で正方形に切る「箔うつし」を、寺本氏は石川県の観光PRマスコットキャラクター「ひゃくまんさん」の置物に金箔を貼り付ける「箔貼り」の作業工程を披露しました。

(右上から、衣、食、住のテーマごとの金沢市の出展品)



「衣」：金箔を施したレースのアクセサリー



「食」：食用金箔を包んだ折鶴、金箔をあしらった角皿



「住」：金箔うちわ、ボールペンやカードミラーなど



金箔箔の実演に魅せられる来場者

職人から、金箔箔の製造には400年以上の歴史があり、現在、金箔の国内生産高の99%以上を金沢市が占めていること、金箔箔は仏壇や漆器など多くの工芸品に活用されているほか、金閣寺や日光東照宮などの世界遺産の修復にも用いられていること、フランスと異なり、日本の金箔は装飾だけでなく木造の建造物や仏像の防虫目的もあるため、薄くなっていることなどが説明されると、来場者からは驚きの声が上がりました。

また、来場者は1時間以上も金箔の繊細な輝きと匠の技に見入り、「箔うつしの紙は何でできているのか」、「切り落とした箔はどうするのか」、「1つのインゴットからどれくらいの箔が作れるのか」、「フランスの箔との違いは」、「一人前の職人になるには、どれくらいかかるのか」など質問を重ね、その関心の高さに職人たちも驚かされていました。



職人の説明に思わず驚きの声を上げる来場者

元 JET も活躍！ フランス金箔職人、大使夫妻も来場

今回の金箔箔のプロモーションには、金沢市国際交流専門員マチルダ・デュボワ氏（元同市 JET プログラム国際交流員（CIR））も同行し、同市での5年を超える勤務・生活経験を活かし、職人の専門的な説明をフランス語で、現地の人々に的確かつ分かりやすく伝えていました。



職人の専門的な説明を分かりやすいフランス語で伝える金沢市の元 JET デュボワ氏（右端）

また、会期中には、過去にベルサイユ宮殿の内殿の修復を手掛け、金沢市に来訪経験もあるパリ在住の金箔修復家アラン・プティ氏が会場を訪れ、職人同士の交流を深めました。



パリ在住の金箔修復家プティ氏との再会（左より箔職人の寺本氏、プティ氏、伝統工芸士の津田氏）

最終日には、伊原純一駐フランス日本国大使夫妻が会場に足を運び、実演の様子や展示をじっくり見学しました

た。また、職人には熱心に質問するとともに、ねぎらいの声をかけられました。

パリ初出展の確かな手応え

今回のテストマーケティングの結果としては、金沢市から出展した事業者4社すべてが販売実績を出し、フランスの消費者からのさまざまな反応が得られるなど、欧州市場での販路開拓に確かな手応えを感じることができました。職人による実演期間中は、特に売れ行きが伸び、実演により「見る」こと、職人の言葉で「分かる」ことで金箔の魅力さをさらに効果的に伝えることができたようです。職人が金箔を切り揃えるさまを見せながら、切り落とした箔は食用に用いられるとの説明をした後には、食用金箔を包んだ折り鶴が立て続けに買い求められたこともありました。同市は、今年度も同企画展を活用しての伝統工芸品のプロモーションを継続して実施する予定で、今後、工芸を切り口として「金沢」の知名度がますます高まることを期待しています。

パリの実験室：地域の魅力発信、テストマーケティングの舞台

今回の企画展には、金沢市を含む全国17の自治体が出展し、会期中は1日平均約600人の来場者数を記録しました。また、ほぼすべての自治体で売り上げがあがるなど、日本の伝統工芸品への関心の高さと海外販路開拓への可能性が感じられました。展示会場では、説明員が地域の工芸品の案内とともに、フランス人から製品に



日本の伝統工芸への関心の高さがうかがえた今回の企画展

に対する率直な意見を聞き取り、フィードバックも行うため、今後の課題やヒントも見つかり、どの自治体にとっても効果的なテストマーケティングの機会になります。

<2019年度実績>

■参加団体

青森県、鶴岡市(山形県)、新潟県、富山県、金沢市(石川県)、福井市(福井県)、山梨県、富士川町(山梨県)、長野県、高山市(岐阜県)、名古屋市(愛知県)、京都府、浜田市(島根県)、倉敷市(岡山県)、福岡県、久留米市(福岡県)、熊本市(熊本県)

■企画イベント

富山県(和紙の紙すき、銅器の着色、漆器の螺鈿細工、
鋳物の象嵌工程の実演)
金沢市(金箔うつし・貼りの実演)
長野県(組子の実演)
名古屋市(神具であるお供え物台、三方の製作)
倉敷市(畳縁と真田紐を使ったカードケース、ミニ畳
の製作)
福岡県(博多織の実演)

今年度は11月にパリで開催予定

今年度、第8回目となる「伝統と先端と」展は、今年11月に、「食」をテーマに食器、調理器具など食にまつわる工芸品を中心に、以下のとおり開催する予定です。

<第8回「伝統と先端と～日本の地方の底力～」展>

■開催日時：

2020年11月10日(火)～11月21日(土)(予定)

■会場：

パリ日本文化会館

■事業内容：

- 地域の伝統産業技術を活かした製品等の展示や会場内での販売
- 出展品等に関連する地域の魅力を効果的に発信する企画イベントの実施

今後も本企画展が、自治体にとって良い情報発信、テストマーケティングの機会として効果的に活用されるとともに、現地フランスの方にとっても、まだあまり知られていない日本の地域の伝統工芸の素晴らしさに触れる良い機会になることを願っています。